

## 高岩山遭難(2012年9月)

64歳単独。下山道は直角に曲がっていたが、気づかずそのまま尾根を直進下降し遭難。2日後沢で、滑落の痕跡と低体温症で亡くなられたと思われる遭難者の遺体を発見した。



## 解説

下山道は直角に曲がっていたが、それに気づかず、直進してしまう典型的なパターン。直角に曲がる場所には立派な道標が設置されていたが役には立たなかった。足が少し不自由で、山行にはいつも杖を携行していた。単独行も死亡につながった要因である。また、行き先を明確にしておらず、家族は「奥多摩の山に行く」とだけ聞いただけだった。

道標を確認せず、誤った尾根道を直進した結果から推測すると、体力が低下し、集中力が切れた頃、道迷いの分岐にさしかかり、見過ごしてしまったのだろう。また、「あれっ！おかしい」と気づいた時には、「登り返すよりも下ってしまえ。」という判断になったのだろう。

鍋割山南の1067ピークでコンパスをセットし進行方向を示すことをしていたならばルートへの迷いに気付いたのかもしれない。また、高岩山の尾根(サルギ尾根)は急な下りがないが、直角に曲がらず直進した迷い道は急な尾根なので、下山道のルートの予測が重要で、単独行は十分な慎重さが必要である。